

# 村政懇談会（石神地区） 会議録

～少子高齢化及び農業後継者問題を踏まえた石神地区の将来像について～

記録者：岡部

○日 時 令和3年7月4日（日） 17時55分～19時45分

○場 所 石神コミュニティセンター 会議室

○出席者 <石神地区> ※敬称略

香取義彦（外宿一区自治会長），中井川博保（外宿一区自治会書記），黒沢弘文（外宿二区自治会長），鈴木和行（外宿二区多面的機能推進委員会副委員長），峯島伸行（内宿一区自治会長），黒澤隆（内宿一区副自治会長），古橋喜和（内宿二区自治会長），長嶋勉（内宿二区前自治会長，環境保全推進員），佐藤宗一（竹瓦区自治会長），根本正文（認定農業者）

石神コミュニティセンター 豊嶋センター長，小野瀬副センター長，記録者

計13名

<東海村>

山田村長，萩谷副村長，村民生活部 佐藤部長，産業部 飯村部長

地域づくり推進課 池田課長，三瓶課長補佐，根本主任，山田主事

計8名

○主な内容

## 1. 開会

【豊嶋センター長】

お忙しい中，令和3年度石神地区村政懇談会に参加いただき感謝申し上げます。本日の進行を担当させていただく。なお，本日の模様は「広報とうかい」や，石神地区自治会で発行している広報「いしがみ」などへ掲載を予定している。写真を撮影させていただくので御了承いただきたい。

では，村政懇談会の開催趣旨について，村民生活部地域づくり推進課課長から説明する。

## 2. 趣旨説明

【池田課長】

お休みのところ参加いただき感謝申し上げます。今年の村政懇談会はコロナ禍ということもあり，全ての地区において例年よりも大幅に人数を絞った形で実施している。また，これまでは参加者も多く，前日準備等々で地区自治会の役員の方々に負担を掛けていたので，これを改善すべく手法を見直した。村と地域との話し合いの時間を多く設け，個別の要望については，自治会要望，村民提案，村民レター等で対応させていただく。

今年の村政懇談会の趣旨は2つある。1つ目はテーマについて地域と村が対話し，共に考えていく場とすること。2つ目として，今日話し合うテーマについては，今後，地域でも話し合いを重ねていただきたいということ。本日の村政懇談会がそのきっかけになればと考えている。

本日の話し合いだけでは石神地区の将来像について答えを出すのは難しいと思うが，今後，このテーマについて地域としてどう取り組むのか，あるいは村と一緒にやっていけそうなものはどういったものがあるか，等々について地域での話し合いの中で結論を導き出していければ幸いである。村としても地域の方々と共にできること，あるいはやるべきことが見えてきた時は，村の施策等にも反映していきたいと考えている。本日はよろしく願いたい。

## 3. 村長あいさつ

【村長】

お忙しい時間にお集まりいただき感謝申し上げます。今ほど，課長からお伝えさせていただいたと

おり、今年の村政懇談会は手法を変更して実施しており、本日で4ヶ所目となる。従前の村政懇談会は一部の方からの意見を聞いて帰る、という状況であった。これは大変もったいないことだと感じていた。コロナ禍ということもあるが、全ての参加者の方に御発言いただきたいとの思いから、今般、人数を限定して開催させていただいた。全ての意見に答えを返すことができるか分からないが、やり取りを経て、参加者同士で話し合いが持てればと思っている。今必要なのは、役場からの一方的な説明ではなく、皆で話し合う場であり、かつこれを継続していくことである。話し合いを継続していかなければ最終的な結論は出てこない。村政懇談会をきっかけに、話し合いの場が次に繋がるようになればと思っている。御理解のうえ、御意見を伺いたい。

ここで、本日の村政懇談会には直接関係ないが、ワクチン接種の件で話をさせていただく。村は村内の開業医の協力のもと個別接種で対応しており、一定程度の予約枠は確保している。75歳以上の方からスタートし、ワクチン接種を希望する方は医療機関を選ばなければ予約を取れる状況にある。60歳未満の方に関しては全体的に前倒しで実施したいが、村が希望するワクチン数が供給されていないため、予約枠の開け方は年代ごとに慎重に進めていくので御理解いただきたい。ただ、接種券は送付するので職域等他の機関で受けられる方は積極的に接種してもらいたい。疑問点があればコールセンターに相談願いたい。

#### 4. 出席者紹介（センター長）

#### 5. 本日の進め方について（センター長）

本日の懇談会のテーマは「少子高齢化及び農業後継者問題を踏まえた石神地区の将来像について」である。まずは、産業部から農業後継者問題に関して近年の新規就農者の状況や、後継者対策として取り組んでいる施策等を説明する。その後、村民生活部から少子高齢化、またその状況下での地域活動について説明する。村からの説明のあと、皆様全員の御意見を伺い、村長から村の考え方を説明する。村長の説明が終了後、テーマに沿って参加者同士で意見交換を行う。今後に繋がる有意義な懇談会にしたい。意見発表時の発言時間は1人3分程度とさせていただく。常にテーマを意識し、発言者の内容を否定せず前向きな発言をお願いしたい。

#### 6. 農業後継者問題について（産業部 飯村部長）

##### 【飯村部長】資料6

- ・「村内における就農相談状況」：相談はにじのなかにある農業支援センターで対応している。令和2年度に相談を受けた方の一人は「農の雇用」により従事し、令和4年度には独立し、石神地区で新規就農を予定している。将来的には認定農業者を目指しているようである。
- ・「村が後継者対策として取り組んでいる施策」
  1. 「新規就農者育成補助金」：村独自の補助金で、県内自治体では類を見ない手厚い内容である。4種類の補助金があるので資料をお読み取りいただきたい。
  2. 「認定農業者育成支援強化対策補助事業」：農業経営計画の達成に向けて必要な農業用機械等の整備に要する経費に対し補助を行うものである。
  3. 「東海村ハウス栽培奨励補助事業」：野菜の出荷を目的としている方に対し、ビニールハウス新設費用の補助を行うものである。支援策の成果としてにじのなか等への出荷が増えていく。
- ・昨年度、地域農業の将来（人と農地の問題）に関するアンケート調査を実施した。石神地区では、農業後継者がいると答えた方は17.7%と全体に比べて少し低い。村農業委員会の下、約2,600,000㎡の農地が貸借されているが、うち約30%は石神地区の農地である。6地

区平均は16～17%なので石神地区の農地は他の地区の方も耕作している事が分かる。国道6号付近は遊休農地がほとんどないと聞いている。

## 7. 少子高齢化問題について（村民生活部 佐藤部長）

### 【佐藤部長】資料1～5

- ・資料1「行政区別・年齢別の世帯数及び人口推移」：東海村全体で人口は大きく変わっていないが、年齢別人口では15歳未満が減って75歳以上が増えている。石神地区は、外宿一区、外宿二区、竹瓦区では人口が減少、15歳未満も減少、65歳以上が増加。内宿一区は、人口は若干の減少、15歳未満も減少、65歳以上が増加。内宿二区は、人口は増加、65歳以上及び15歳から64歳の現役世代も増加しているが、15歳未満は減少。
- ・資料2「行政区別・年齢別の世帯数と人口」：石神地区では内宿一区の人口が一番多い。高齢化率が高いのは竹瓦区の42%で東海村全体の3番目に入っている。
- ・資料3「自治会別高齢化率」：村内中心部は高齢化率が低く、端に行くほど上昇している。石神地区では、竹瓦区、外宿二区、外宿一区の高齢化率が高い。
- ・資料4「東海村の出生数」：年々減少しているが、令和2年度時点における15歳未満の数は県内で上位4位である。1位から3位は県南の守谷市、つくばみらい市であり、TX線沿いで都内に通勤通学できる地域である。65歳以上の高齢人口も東海村は25.3%で、44市町村中41位である。高齢化率は上昇しているが、県内では低い位置にある。
- ・資料5「地域活動に対する村の支援のご紹介」：お読み取りいただきたい。
- ・村外の方に村の魅力をPRするための冊子「Story」を作った。子育てに関する取り組みが掲載されているので参考にさせていただきたい。

## 6. 地域住民からのテーマに対する考え

### 【外宿一区自治会長 香取義彦】

- ・人口減少をどう食い止めるか。石神地区は調整区域が多く土地利用の縛りがあり、人が集まってくる手段がない。人口減少や農業振興のためにはこれを解除・解放する施策等を展開し、人が集まる環境づくりが必要である。若い人の自治会加入等、地域活性化にも繋がるので農業の振興も大事であるが、開発手法・手段についても考えていただきたい。

### 【外宿一区自治会書記 中井川博保】

- ・少子化は東海村だけでなく全国的な問題。若い人は便利な所を好み、東海村から出て行ってしまいうように感じている。
- ・農業は作付面積が大きくないと利益が得られない。また、天候にも左右される。農機具も高額である。レンタルもあるが自分が使いたいときに使えないなど活用しづらい。
- ・石神地区は跡継ぎ問題が課題である。若い人が住みやすい地域にするとともに、生活するための利益をどのように確保するかを考えなければならない。

### 【外宿二区自治会長 黒澤弘文】

- ・資料を見ると新規就農者は全員畑作となっている。畑だと年に何回も収穫し利益を得られるが、田んぼは年1回。外宿二区や竹瓦は田んぼが多いので、そこに大規模就農者が入れるような仕組みづくりを考えていく必要がある。
- ・調整区域で住宅を誘致できないため夜間人口は増えない。昼間の人口を増やす施設等を考えると、石神城址公園があるが管理が行き届いていなので利用できない状態である。そこを活用す

るのであれば、きちんと整備して年中使えるようにしていくべき。石神地区には遺跡が多い。休耕地を活用するなどして、遺跡に関して何らかの取り組みを展開し、地区の知名度を上げていけないだろうか。

**【外宿二区自治会多面的機能推進委員会副委員長 鈴木和行】**

- ・少子高齢化は止めようがない。特に外宿二区や竹瓦は進む一方である。お互い助け合っていないと生活が厳しくなっていくと思う。
- ・自治会役員のなり手がいない。一部の意識のある方で地域を守っているのが現実。地域や行政のことは役場退職者が一番分かっているはずだが、地域活動には非協力的である。退職時に意識付けが必要ではないか。

**【内宿一区自治会長 峯島伸行】**

- ・農業の問題にはそれぞれ意見を持っていると思うが、視点を変えて観光に目を向けるのはどうか。花の名所である福島県の花見山公園は、人工的に作った観光地であるが、花を見に多くの人が集まる。石神地区でも花を使つての振興を考えてはどうか。子ども達や若い人も東海村にとどまってくれるのではないか。

**【内宿一区副自治会長 黒澤隆】**

- ・「東海村人口ビジョン」及び「東海村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を読み込み、少子高齢化についての東海村の取り組みを勉強してきた。素晴らしい内容だと思う。どう取り組み、どういう結果を出すかが重要だが、5年を経ての昨年の達成値はどうだったのか、また今後の具体的な取り組みについて確認したい。
- ・高齢化については助け合いをしっかりとやらねばならない。自治会、常会もそうだが人間関係が希薄になっていると実感している。声を掛け合い、自分たちにできることを強化していかなければならないと自治会活動を通じて強く感じている。

**【内宿二区自治会長 古橋喜和】**

- ・少子高齢化対策を考えたとき、例えば「内宿二区子供の遊び場」があるが、残念なことに滑り台が撤去され、ブランコと鉄棒だけで草も伸び放題の状態である。以前、鹿嶋市で国有地を払い下げて広大な公園を作り、子供たちが歓声を上げて遊んでいる光景を見た。舟石川地区にあるような、家族で憩える公園が石神地区にもあれば魅力を感じてもらえるのでは。

**【内宿二区自治会環境保全推進員 長嶋勉】**

- ・自治会役員になって地域の方との接点ができた。コロナ対策のため高齢者の集まる機会がなくなってしまうが、終息すればサロン活動等を通じて心のケアを行っていきたい。
- ・新しい住宅ができていますが、農地と宅地を計画的に区分し、整然としていただきたい。
- ・小さな田んぼは点々としていて作りづらい。高齢化で跡継ぎもいない。土地を借りて耕作する人がいても作りづらいので、一町歩程度にまとめて貸し付けではどうか。

**【竹瓦区自治会長 佐藤宗一】**

- ・自然環境（河川敷や石神城址公園）の活用法を考えられないか。以前は香取橋の遊歩道があっても怖くて歩けない状況だったが、今はきれいになり、他の地域から土手を散歩しに来る人も多い。将来的に公園等が整備できれば昼間の人口も増やすことができるのでは。

- ・自分も農業をしているが、今使っている機械が壊れたら、新たに購入すべきか否か考えてしまう。購入すると採算が合わない。村で組織を作り、機械を共同で使えるような施策があれば農業も続けられるのではと感じている。

#### 【認定農業者 根本正文】

- ・米、麦、大豆を中心に耕作している。竹瓦は少子高齢化が進んでいる。今後、地域活動ができるのか心配だ。自治会運営の簡素化や効率化が必要だと思う。住民の若返りができればいいが難しいので、むしろ自分たちの住んでいる地域は良い所、魅力ある所だと思えるようにしていくことが大事。遊歩道等の環境を整備して終わりとするのではなく、これをしっかり管理していくことがより重要である。管理されているだけで人も来て、それが魅力に繋がる。
- ・農業に関しては、農地を持っている人も売却してしまい、隣の土地なのにノータッチという方も出てきている状況である。地域が魅力的なのと同時に農業も魅力的な生き方だ、と思えることが後継者問題にも関わってくるのではないか。
- ・農業は大規模化と言うが中規模でもよい。普通に暮らすことができればいいと思う。その方が、天気に左右されず、疲れたら休むといった余裕を持った農業ができるのではないか。今は、大豆の加工肉のブームもあるので、二毛作でこれを栽培したりすることもできる。
- ・環境問題に関しては、農地への不法投棄問題がある。

### 8. 村長からのテーマに対する考え

#### 【村長】

- ・土地利用について、調整区域の農地は基本的に家を建てることはできないが、茨城県では同一大字内か隣接大字内に通算10年間住んでいれば10年ルールが適用され建築が可能となる。農振農用地内の場合だと、農地転用の前に農振除外手続きが必要だが、農振法に基づく事務処理に問題がなければそのまま農振農用地から除外され、住宅建築が可能になってしまう。
- ・このままだと農地の虫食い状態が一層進んでしまうので、将来的には農振農用地を除外するエリアと、そうでないエリアとに線引きすることが不可欠だ。農業委員会は農地を守る立場なので、できれば農地転用は許可したくないが、全ての農地を守りきることはできない。農業委員会において、農地として守るエリア、宅地を許容するエリアとに分けて、地域と合意をとる必要が出てくるかと思う。
- ・個人的には、畑は一定程度宅地として供給するしかないと思っている。宅地として供給するエリアは、国道6号のような幹線道路に近い方がよいか、小学校に近いほうがよいか、地域や、不動産業者の声を参考に考えていきたい。最終的には民・民の話になるが、宅地と農地の区分け・色付けが必要である。
- ・水田については対策が難しい。稲作専業で経営している方もいるが、その方は細浦地区の水田を20町歩耕作している。10町歩程度では経営の安定化は難しい。大規模に耕作していくとなると法人化しかない。村では東海平土地改良区と連携して組織化を考えている。繰り返しになるが、水田は法人に守ってもらえないというのが村の考えである。
- ・定住人口（夜間人口）対策としては、観光や仕事で地域に関わってくれる人（関係人口）を増やし、石神地区に興味を持っている人を引き寄せるしかない。石神地区は自然が豊かで、川や田んぼだけでなく石神城址のような文化的財産も存在しているので可能性はある。ただ、拠点を整備したら管理していくことが大事である。人が集まるということは、人をさばく必要がある。運営はどうするか等々の問題もあるが、夢のある楽しい発想で話をしなければ面白くない。できない、できないと言うのではなく、先程の土地利用の件も含め、この地域でどこを活用し

ていくのか等を考えていくタイミングなのかもしれない。

- ・「東海村人口ビジョン」及び「東海村まち・ひと・しごと創生総合戦略」は改訂版を出し、人口は3万8千人と記載していたところを、3万6千人に下方修正した。それでも国の基準からみるとかなり強気の数字である。この数字を維持するには年間の出生数は300人、転入者は50人をキープしなければならない。総人口でみるとキープ可能かもしれないが中身が大事となってくる。これまでは、村内に住んでいる方を対象に子育て支援を展開してきたが、これからは、村外からの転入者を増やす取り組みが必要である。常陸太田市では新婚家庭への家賃補助等があるが、東海村でもそのような制度が必要だと思っている。新婚の方にはぜひ東海村を選んでいただき、アパートに10年住んだのちには、村内に住宅を建築し、そのまま定住してもらいたい。少子化対策の幅を村内者のほか、村外者も対象とし、人口を増やすための新たな施策に取り組んでいきたい。
- ・児童公園は、区画整理事業によって生み出した土地を利用して整備されているケースが多い。舟石川地区の近隣公園、駅の東側にある神楽沢橋の下に新しくできる公園等がその例である。石神地区の調整区域内に公園を作るとなると、地域の方から土地を提供していただく必要がある。これまで村には調整区域に公園だけを造るという発想はなかった。文化財の関係で石神城址公園付近に手を出せないが、舟石川の近隣公園と連動するような形で可能性があるか否か。先程の住宅地をどういうところに誘導するかということも含めた話し合いが必要かと思う。
- ・村職員OBが自治会活動に消極的だとの意見については申し訳なく思っている。私は職員が退職する際には、地域のお手伝いもするよう必ず伝えている。これからも継続して伝えていく。現職の職員にもその旨、声を掛け続けていく。
- ・自治会の運営に関しては、役員のなり手がいない中、今入っている方のケアという意味で高齢者の見守りや子供たちの防犯パトロールは何とか続けていただきたい。お祭りはコロナ禍ということもあり、従来のような形ではすぐには再開できないが、どこかのタイミングでできればと思っている。今年度はワクチン接種を最優先に進めていくが、どの段階で活動が再開できるか皆さん悩んでいると思う。村もイベントを自粛している状況であるが、地域活動を再開しやすいよう、村としても活動が始められそうな時期が来た時は先んじて再開していく。事業の再開時期については地域づくり推進課にも相談してほしい。

## 9. 参加者同士の意見交換（フリートーク）

### 【竹瓦区自治会認定農業者 根本正文】

- ・認定農業者への村からの補助金はありがたい。別枠というわけではないが、認定農業者に余裕を与えるのであれば、農機具のオプションにも補助があればなおありがたい。そのような補助があれば、自分の農地以外の場所も整備するのではないか。自分はそうしている。魅力ある地域にしていく取り組みのひとつに農道整備もあると思う。例えば農地に道ができ、その道のための排水のU字溝が結構ある。農地のためのU字溝ではないが土あげの作業は農家が負担している。このように大規模農業といっても手作業がたくさんある。機械によって手作業を減らしていければと思う。
- ・ごみ捨てに関して、広報とうかいでは、自分の所有地に入ったごみは自分で処理するよう案内されているが、隣地が荒れていることで自分の土地にごみが捨てられてしまう。村にはごみ捨てをしないようなアピール等に取り組んでいただきたい。

### 【外宿一区自治会長 香取義彦】

- ・皆さんの意見を聞いて、土地利用に関してよい話が出てきたと思う。少子化対策として人を集

めるという事を考えると、公園を造る→箱を作る→人を入れる→管理する、そして運営をどうするかという時に自治会が介入してはどうか。石神5地区が当番制で担う、あるいは中学校区自治会で回していく等、いろいろなアイデアが出てくる。有償ボランティア制度を導入し、協働色合い加えれば持続性のあるものができるのではないか。そのような手段で石神地区の活性化を図っていききたい。村にお願いするだけでなく、我々も参画していかなければならない。

**【竹瓦区自治会長 佐藤宗一】**

- ・村として、石神地区にそのような計画はあるのか。

**【村長】**

- ・今はない。昔は地区ごとに計画を作っていたが、今は作っていない。本来は学区ごとにどういう地域にしたいか等の話し合いが必要だと思っていたがそこまで手が回っていない。石神地区だと国道6号の拡幅がメインで、面的な整備をどうするかの写真が描けていない。今回皆様からそういう話が出てくるのであれば、話し合いが必要だと思う。

**【内宿二区自治会長 古橋喜和】**

- ・今日、内宿二区の環境整備委員会で朝から2時間草刈りをした。不法投棄されたごみが多かった一方、きれいに草が刈ってある場所にはごみが少なかった。今回は第1回目の活動だったが、今後活動していく中でどうすればよいか考えていきたい。村にも相談させていただきたい。

**【村長】**

- ・耕作放棄地、斜面緑地等、死角になるところは不法投棄されやすい。今般、多面的機能広域推進委員会も設立され、農的環境を整備するにあたり国から一定の金額が交付されることになった。その交付金で対応可能な場所、そうでない場所があるかと思う。対応が難しい場所については、やはり防犯カメラを設置するのがベストだろう。カメラはダミーであっても抑止力がある。難しい問題ではあるが、地域の力を借りながら、きれいな環境をどう維持していくか考えていかなければならない。

**【外宿二区自治会長 黒沢弘文】**

- ・石神幼稚園の跡地はどのように活用していくのか。当該地は旧石神村役場跡地である。村長には以前からお話しているが、外宿二区の集会所として譲っていただけないだろうか。現集会所は老朽化が著しい。もし当該地に公園や展示場を造るといっているのであれば、それもあかと思う。

**【村長】**

- ・今のところは何の構想もない。どう活用したいのか、まずは地域で考えてもらってよい。突拍子もないかもしれないが、石神小学校の近くに定住促進住宅を建て、10年住んだら近くの調整区域に家を建ててもらいたいと思っている。今までは県営アパートがその役割を担っていたが、最近の入居者が少なく循環がなくなった。村営住宅を造る計画はないが、民間の力を使って定住促進住宅等を建て、人を呼び込み循環するよう仕掛けていかねばならない。石神幼稚園跡地はそのよう場所としても使えるのではと考えていたが、地域の喫緊の課題として必要なものがあるのであれば、それはそれで検討していただきたい。

### 【副村長】

- ・夜間人口を増やすことは難しいが、村として諦めている訳ではない。先ほど、まずは昼間の人口を増やす策として観光という視点はどうかとの意見が出た。海浜公園、足利市のフラワーパーク、福島県三春の桜のように花を使った取り組みで人を呼び込み、それがひとつの魅力となって、この地域への印象が向上し、定住に結び付けていければ最良であると思う。

### 【内宿一区自治会長 峯島伸行】

- ・福島県の花見山公園は人工的に作ったものであるにもかかわらず、多くの人が来ているということに驚いている。石神地区でも前谷あたりの水田は環境的にも耕作が難しい。苦労して作ったキャベツが1個100円で売られている時代である。親が農業を営んでいたのが農業の大切さはよく分かっているつもりだが、大きな声で農業に力を入れる、と言うのは難しいと思う。

### 【村長】

- ・畑で言えばサツマイモ（甘藷）は生で売れている。輸出をしているので畑も不足している。例を出すと、銚田市の方が東海村の畑を借りて耕作しているほど畑が不足している。県も必死に補助金を出していて、畑は全部サツマイモ畑でもいいと言うほど奨励している。なので、畑は野菜やほしいも等収益性が高い。一方で水田は米だけというのは厳しい。だが水田地帯をないがしろにはできないので、稲作は法人化や集約の方向性を考えていく。河川敷は国交省が水害対策で木を伐採した。今後も国交省が整備してくれることになっている。河川敷は水害時の復旧が大変である。仮に何かを作っても水害のたび流されてしまい、トイレのひとつも作ることができない。そのような場所に何か村として投資するというのは難しい。河川敷をうまく活用したいとは思っているが、常に水害と背中合わせという状況なので、どうしても堤防の外側で考えざるを得ない。

### 【外宿二区自治会長 黒沢弘文】

- ・そう考えると石神城址公園周辺をしっかりと整備するべきだと思う。現状は来訪者も少なく、駐車場は洗車に利用されている有様でなんとも寂しい状況だ。

### 【村長】

- ・石神城址公園は石神地区のシンボリック的存在で、竹瓦や小学校にも近く拠点となる場所である。村では歴史と未来の交流館建設が最優先事項であったため、石神城址公園の整備については、基本計画の策定までにとどめていた。今般、交流館建設も完了したので、将来的にどう整備していくか話を進めていきたい。その際は皆さんに意見を聞きたい。

### 【外宿一区自治会長 香取義彦】

- ・ある稲作農家の方が、消費者に人気があるのは坏の田んぼで作った米で、前谷の田んぼで作った米は買ってくれないと言っていた。私は前谷をウォーキングしている。前谷から竹瓦を経由し、坏や川向こうまで抜けることができる。サイクリングも可能で多様なことができる。峯島会長のおっしゃる通り、耕作放棄地は前谷の田んぼに多い。そうであれば、大胆な発想かもしれないが、前谷からその周辺は農地以外の利用を考えてみてはどうか。先ほど話が出た公園も、今申し上げた場所に造って、運営も自治会と連携して取り組んでみてはどうだろうか。歴史と未来の交流館建設も完了したので、今度は石神地区に目を向けていただき、孤立の石神地区ではなく、開発の石神地区、元気のいい石神地区にしていきたい。自治会も協力する。

**【村長】**

- ・楽しい話をすると意見もたくさん出る。それをまとめていくのは大変だが、意見が出ないと前進しない。これはバックキャストという考え方であるが、できるか否かは別にして、こういう地域でありたいという姿を思い描き、そのために何をすべきか、今はその段階である。今日はいい意見が出たので、今後も別な形で継続していけるようにしたい。課題は課題として対処していくが、こうありたい、こうであれば楽しい等々の夢を語る必要がある。一方で、夢だけ語って終わりにならないよう、目的達成に向け一歩ずつ何かを始めていくことが大事である。話し合いを経て、これから取り組んでみる事柄を決め、着実に前進していることが実感できれば、次も皆で話し合っ協力してやっていこうとなる。そのような機運を大事に育て、形として現れるようにしたい。

**【池田課長】**

- ・活発な意見交換ができ感謝申し上げます。本日皆様から出された意見や、村から申し上げた見解等については議事録としてまとめ、後日配布させていただく。今後、地域における様々な話し合いの場で活用していただきたい。

**10. 閉会**